



Book Review

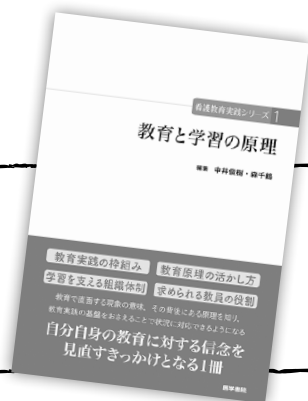
評者：山田かおる

動医会東葛看護専門学校 副校長

看護教育実践シリーズ1 教育と学習の原理

シリーズ編集：中井俊樹／編集：中井俊樹・森千鶴

定価2,640円(税込)／発行：医学書院／TEL：03-3817-5650



教員の使命をあらためて深く自覚する

「どうしたら学生が主体的に学ぶのか」「学生が意欲的に学べる授業がしたい」そんな悩み・願いをもちながら、教育実践をしている看護教員が多いのではないと思う。本書は、そんな教員の教育実践を応援する書籍だ。

本書は3部構成であり、第1部「教育と学習の基礎」では、教育とは何かという教育の本質が述べられている。看護教員の役割を知り、そして学習者がどのように学び、熟達していくのかを理解することができる。第2部「教員の特徴と姿勢」の内容は、看護教員の特徴、教員に求められる学識や倫理などである。教員は自身の教育観を発展させ、高い倫理観が求められることに気づかされる。第3部「組織的な教育の体制」では、教育制度の基礎知識、カリキュラム編成と評価、さらに教育改善について述べている。

本書の第1部に、学習者にとって学ぶとは何か、そして学生はどのように意欲を高めていくのか書かれている。これは教員にとっては最も関心がある内容だと思う。私は1人の看護学生(Aさん)のことを思いながら、本書を読み進めた。

Aさんが出会った患者(Bさん)は、重症感染症による心不全の悪化で呼吸苦が続いていた。受け持ち2日目にBさんは「安楽死させてほしい」とつぶやいた。実習後、Aさんは「私にはBさんの言葉が「助けて」という叫びに聞こえました。それまでは患者さん

の内面にまで入り込んで看護することが苦手で、客観的にしか患者さんをみるのができずにいました。しかしBさんを受け持ち、死の恐怖を感じながらも“生きたい”と願うその思いに心動かされました。はじめて、患者さんの苦しみが自分の痛みになり、患者さんの回復が自分の喜びになっていきました」と振り返った。

学生の変わり目(成長の瞬間)に出会えたとき、私たち教員は何ものにも代えられない喜びややりがいを感じる。Aさんの成長のカギは何だったのか。本書のなかに答えはあった。看護学生にとって患者さんとの出会いは学びへの内発的動機になっていたのだ。荒い呼吸のなか、背中をさするAさんに感謝を述べるBさんの言葉で、いままで自分の看護に自信がもてなかった学生が、この患者さんのために力を尽くしたいと突き動かされ、自己効力感の高まりが、夢中になって学ぶように行動変容させていく。私は、本書に書かれた「看護教育を通して人格を完成させる使命がある」ことをあらためて深く自覚させられた。

ベテラン教員は教育実践を振り返って学ぶために、若手教員は教育と学習の原理を理解するために、そしてカリキュラム責任者は自校のカリキュラムを評価し改定に活用するために。ぜひ、多くの看護教員に読んでほしい1冊である。